

令和6年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 基本的生活習慣の確立を基礎とし、自己の健康に目を向け、健全な心身の発達を目指す。	(1) 委員会を活用した、心身ともに逞しい身体づくりを推進する。 (2) 遅刻カードにて生徒の心身状況の確認を行い教員間で共有する。 (3) AED講習、性教育講話等を実施し、生徒の事故防止に努め、また人格の完成豊かな人間形成を育成する。	A	A	1 毎週金曜日お昼休みに保健委員を輪番制で集め、アルコール補充、液体石鹼の補充を実施した。生徒が主体的に動く環境が整備できた。 また、今年度から新たな取り組みとして、教員向け AED 講習、性教育講話を実施し、とても充実した研修だった。しかし、運営方法として課題が見つかった。生徒に密接なテーマの設定が必要である。 2 学校の環境整備という観点では、まだまだ改善する箇所が多数見られる。不必要な物品の放置。生徒がリラックスできるスペースの確保。清掃用具の充実さなど、安心・安全な環境整備を行うにあたって物足りなさを痛感した。 3 計画的にきめ細かく佐藤先生と連携を取って教育相談を実施。関野先生による研修を1回。外部講師を招いての研修を1回実施。次年度も継続したい。教育相談だよりを毎月発行した。
	2 快適で安全な環境づくりに努める。	(1) 教室環境の整備をする。 (2) 環境美化の意識の育成を図る。清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて、環境美化を図るとともに、物を大切にする人間性を育む。 (3) 委員会を運用する。主体的に活動できる人材育成を目指す。	B		
	3 教育相談の充実。	(1) 保健厚生部長、教育相談係、養護教諭学年部長、担任との連携を強化し、生徒に関する情報を共有化することにより、素早くきめ細かい教育相談を行っていく。学年毎に教員を配置し連携を取れるシステムの構築。 (2) 『教育相談だより』を発行する。人格の成長への援助を図る。	A		